

ママの悩み



『5歳と1歳の子の母です。二人目を妊娠中は、上の子があまりにも可愛くて、生まれてくる下の子に愛情がもてるか心配していたくらいでしたが、実際に下の子が生まれてからは、この子の方が可愛くて…。上の子に悪いなと思いつつも、なんとなく下の子を可愛がるようになってしまいました。愛情がなくなつた訳ではないと思うのですが、イライラしたときなどは上の子についあたってしまったりもします。最近では上の子に「ママは私の事が嫌いだから」と言われるようになってしまいました。自分でもいけないとわかっているのですが、どうしたらいいのか…。アドバイスをお願いします。』

A

新しく生まれた下のお子さんが可愛くて上のお子さんに悪いと思いつつも、偏愛するつもりは全くないのに、イライラした時などつい上の子にも当たつてしまふ「ママは私の事が嫌いだから」と言われてお悩みになっているのですね。

「愛情がなくなつた訳ではない」「自分でも悪いと思つているのですが…」などのことは、お母様自身がそのことを悩み、自覚なさつているところに明るく期待が持てるように思います。複数の子どもに公平な愛情を分かち合うというのは理想的ではありませんが、人間の親には実は中々難しいものです。

例えば自分に似て解り合える要素の多い子どもは親に気に入られることが多いのですが、逆に親自身が長い間、欠点として劣等感を持ち続けてきたところが似ていると、それがマイナスに働く場合もあります。又、夫婦仲が上手くいっていないときなど、相手に似た子どもにもとかく冷たい態度をとることもあります。

しかし、あなたの場合はそんな深刻なことではなく、下のお子さんが誕生したお父さんの家庭で経験する問題だと思えます。

何しろ新しく生まれた赤ちゃんは、愛らしく可愛らしいガラスのように頼りなげな存在ですから、大人たちはあやしたり、時には必要以上にかばつたりしがちです。

上のお子さんにとっては、赤ちゃんが生まれるまでは一人占めしていたパパやママの関心を全部赤ちゃんに奪われてしまったようで、腹立たしさや妬みさからいろいろな症状を表します。

パパやママの方は、もう五歳にもなつているからという安心感や期待感を持つているのに、しつけの逆戻りでおねじよをしてみたり、時には泣き虫欲ばり、分かんずく、乱暴など、程度の差こそあれ例外なく起こる現象です。もし、もの分かりがよく良い子ちゃんをしていられるとしたらママに代わる愛情をたっぷり与えて下さる方の存在があるか、淋しい心を無理に閉じ込め、後にその歪みが出ることも考えられないではありません。

こんな上のお子さんの気持ちに気づいて下さる関わりが新しく誕生したきようだといふ愛情関係を育てるのだと思えます。

子どもは、赤ちゃんは勿論、犬でも猫でも小さくて可愛いものが大好き。ママが動物を恐がったり、神経質で触れない場合は別ですが、

愛情の通り合つきようだといふ関係を育てたいなら「赤ちゃんに触つちや駄目」などと叱らず「こうするとネンネするのよ」と軽くトントンさせてみたり、六カ月前後には「ナイナイナイバア」などで遊ぶ機会を作り「ほら、赤ちゃん喜んで笑つてる」と解説するなど触れ合いを楽しませたり「あなたも小さい時は赤ちゃんと同じで何も出来なかつたのよ、今はあなたがよく分かつてくれるからママうれしいわ」と耳元で囁いてあげる上のお子さんは誇りと自信をもち、ママをイライラさせることも減るのではないのでしょうか。

但し、これまでもあまりにも豹変しすぎた優しさは戸惑いを持たせまふから、自然体で接することが大切です。でも、いくら誇りや自信が持てたとし

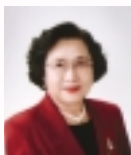
ても、時には赤ちゃんのように扱つて欲しいと望むのが上の子でもです。こんな時は全体としては年齢並みの扱いをしながら、ちよつと赤ちゃんのように抱きしめてあげると気持ち安定します。

気をつけたいたいのにはママ自身が頼りなげな赤ちゃんをいとおしむ反面、大きいのに何故解らないの！という気持ちの方が優先すると上のお子さんの欠点ばかりが目につき、呼びかけられなくても振り向かなかつたり、よい点があるのにみつけれなかつたりということになると、上のお子さんとの関係の修復が難しくなります。その点を考えながら子育てを楽しんでみて下さい。

12005年2月号より転載

＊ ＊ いつもみなさんの質問に答えて頂いている藤岡先生と村上先生のご紹介です ＊ ＊

＊ 今回は、全て藤岡先生からの御回答です ＊



藤岡 佐規子 先生
ふじおか さきこ

1946年、京都女子専門学校保育科を卒業後、光沢寺保育園に入職。以後一貫して乳幼児保育に従事。現在、光沢寺第二保育園園長。北九州市保育所連盟会長、国際婦人開発基金(ユニフェム)日本国内委員会北九州地域等委員会会長、財団法人アジア女性交流研究フォーラム理事、同児童福祉施設等第三者評価委員会・同社会福祉審議会各委員等(以上、現職)。この間、全国社会福祉協議会全国保育士会会長、福岡県保育協議会会長、同保育士会会長、福岡県立大学・西南女学院短期大学非常勤講師等を務める。

- 仲間達への定期便(西部誌発売出版部)
- 育てよう、いきいきつ子(共著、蒼丘書林)
- 子どもと環境(共著、蒼丘書林)
- 感性を育てる保育実践領域環境と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域人間関係と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 感性を育てる保育実践領域言葉と感性(共著、ミネルヴァ書房)
- 保育園の窓辺から…(蒼丘書林)
- 視点はいつも、子どもたち 保育園の窓辺から…PART2(蒼丘書林)



村上 里絵 先生
むらかみ りえ

- 1985年 日本保育学会会員
- 1995年3月 福岡教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻修士課程修了(教育学修士)
- 1995年9月 近畿大学九州短期大学通信教育部 非常勤講師
- 1998年4月 麻生医療福祉専門学校 非常勤講師
- 1999年4月 北九州市保育所連盟保育士会「応答的保育研修」指導講師
- 2001年4月 光沢寺中井幼稚園 副園長
- 2002年9月 福岡県立大学 非常勤講師
- 2003年5月 北九州市社会福祉研修所「乳幼児保育講座」中「監研修」指導講師
- 2005年4月 西南女学院大学短期大学部 非常勤講師